

# 高遠石工 守屋貞治の 美意識



3月1日(土) — 6月15日(日)  
Saturday 1 March — Sunday 15 June 2025

開館時間 9時〜17時(入館は16時30分まで)

休館日

3月3日、4日、10日、17日、24日、4月21日  
5月7日、8日、12日、19日、20日、26日、6月2日、9日

入館料

一般400円(20名以上の団体は1名あたり300円)

※小中学生、高校生、養護学校生徒及び18歳未満無料

※身体障がい者手帳・療育手帳・精神障がい者保健福祉手帳を  
お持ちの方とその付き添いの方1名は入館料免除。

※5月18日は国際博物館の日で入館料を無料とします。

主催

伊那市教育委員会(伊那市立高遠町歴史博物館)

協力

伊那市立高遠町図書館、伊那市商工観光部観光課・高遠  
商工観光課、一般社団法人伊那市観光協会、一般社団法人高遠  
石工研究センター、温泉寺、建福寺、瑞光寺、善福寺、大泉寺、  
大蔵寺、守谷太志氏、小町谷尚子氏ほか



伊那市立  
高遠町歴史博物館

〒396-0213 長野県伊那市高遠町東高遠457  
TEL (0265) 94-4444 FAX (0265) 94-4460  
MAIL t-rhk@inacity.jp



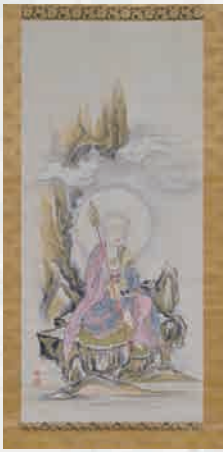
# 守屋貞治の美意識

伊那市高遠町は日本で最も美しい村連合に所属し、高遠石工の石仏がある風景や石仏を活かした取組を美しい村としてのPRポイントに据えています。複数の部署や人材がアイデアを出し合い、高遠石工が手がけた石造物の観光資源化、石仏ガチャの販売、石仏漫画「いなぼとけ」のSNS発信、高遠石工の調査と教育普及活動など様々な活動を展開しています。

高遠石工は江戸時代に急速に発展していった職人集団で、手がけた石造物がブランドのように認識されていたとみられ、歴史的・文化的価値を持つ文化財だと認識されています。

高遠石工の中で最も注目を集めたのは守屋貞治です。江戸時代の明和2年(1765)に生まれた貞治は、祖父貞七と父孫兵衛が石工であったことから自らも石工の道に進み、336体もの石仏を建立し、「石仏菩薩細工」という記録を遺しました。また、伊勢河崎の宝珠院に石仏を納めた際や身延の七面山に登った際の旅行記を遺し、石仏造立に対する思いを記しています。江戸時代の職人が記録を遺すことは珍しいことで、その記録から明らかになってきた貞治の石仏(貞治仏)が、一際美しい彫造であることから、石造文化財の研究者のみならず、歴史の研究者や一般の人々にも注目され、「守屋貞治は高遠石工を代表する人物である」と評価されています。

今回の企画展では、高遠石工守屋貞治に関する調査の結果を示し、彼が遺した記録と石仏を展示します。実物の鑑賞を通して貞治仏が持つ美術的な魅力を感じていただく機会とします。



實門筆《地蔵尊》  
(伊那市高遠町 建福寺蔵)

左手に宝珠、右手に錫杖を持つ延命地蔵尊。健康長寿に御利益があるお地蔵様。實門は仏画師として願王との合作が多い。



實門筆《観世音》  
(伊那市高遠町 建福寺蔵)

左手に水鉢、右手に柳の葉を持つ楊柳観世音。病を治す御利益があるという観音様。足利淨因寺住職實門は願王と法の上の兄弟関係にある。



願王書《不響可谷》  
(伊那市高遠町 建福寺蔵)

守屋貞治の心の師をうたわれる諏訪温泉寺住職願王の書。山奥にある静かな谷を示しており、禪の修行に適した世界を示している。



守屋貞治作《佉羅陀山地蔵菩薩》  
(諏訪市湯の脇 温泉寺蔵)

温泉寺官勇上座の依頼で造ったと考えられるお地蔵様。佉羅陀山は地蔵が住む世界。その世界の中心にいて、日輪光背を持ち、右手を頬に添えている。



高遠石工作《延命地蔵菩薩》  
(駒ヶ根市東伊那 善福寺蔵)

かつて東伊那にあった光福寺に安置されていたものと伝わる。細い錫杖は光背や胴から離れるように綺麗に彫り抜かれている。

## 関連講座

第16回歴博カフェ「貞治の美意識を体感！」 5月17日(土) 正午～午後4時(国際博物館の日関連イベント)

- 会場：建福寺、常盤橋、高遠町歴史博物館 ※昼食を蔵カフェ・ぱふりか(伊那市高遠町勝間327番地)予定。
- 参加費：1,000円(予定) ● 定員：20人(要予約)
- 内容：屋外、博物館内にある石仏師守屋貞治の石仏を鑑賞します。 ● 講師：熊谷 友幸 氏(一般社団法人 高遠石工研究センター事務局長)

第35回歴博講座「『守屋貞治旅日記』を読む」 第1講6月7日(土)、第2講14日(土) 午前10時～11時30分

- 会場：伊那市高遠町地域間交流施設 ● 参加費：500円(資料代) ● 定員：40人(要予約) ● 講師：福澤 浩之(伊那市立高遠町歴史博物館学芸員)
- 内容：『守屋貞治旅日記』の読み下し文を現代語で解釈しながら、江戸時代の高遠石工守屋貞治が高遠を出発して伊勢の宝珠院に石仏を納めるまでの動きがどのようなものだったのかを続きます。

ギャラリートーク 5月3日(土)、10日(土)、18日(日) 午前11時～11時45分

- 会場：伊那市立高遠町歴史博物館2階第3展示室、1階ロビー ● 参加費：入館料のみ※5月18日は国際博物館の日で入館料無料 ● 定員：なし
- 内容：一般社団法人伊那市観光協会が養成した石工ガイドの案内で展示資料を鑑賞しながら守屋貞治について語り合います。その他、地域おこし協力隊員が高遠白を用いた蕎麦の白挽きを実演。
- 案内人：石工ガイド、山本 祐介 氏(伊那市地域おこし協力隊・高遠石工まちづくり研究員)、下平 彩楓 氏(伊那市地域おこし協力隊・信州そばNo.1プロジェクト)

## 伊那市立高遠町歴史博物館



高遠石工作《鏡及び鏡台》  
(辰野町横川 瑞光寺蔵)

實門が鏡面に浮かび上がる観音像を描いている。天保9年(1838)に完成しており、渋谷藤兵衛の作ではないかと考えられている。

菩提樹の数珠(守谷太志氏蔵)

伊勢の宝珠院に地蔵尊を建立した際のお礼としてもらったもの。石仏造立の際にはこの数珠を使って念仏を唱えたという。

